第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

オットンガエル

Babina subaspera (Barbour, 1908)

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026．オットンガエル．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 598-603．

Citation: Toda, M., 2026. *Babina subaspera* (Barbour, 1908). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 598-603.

無尾目 Anura　アカガエル科 Ranidae　　日本固有

オットンガエル

***Babina subaspera* (Barbour, 1908)**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧Ⅱ類（VU）　B2ab

基準 A: ―	基準 B: VU	基準 C: ―	基準 D: ―	基準 E: ―

B2．生息地面積が 2000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。
【地点数】10 地点以下
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
近年の森林伐採、道路の敷設などによる環境改変に伴い、生息環境は悪化している。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

奄美諸島の奄美大島、加計呂麻島、枝手久島に固有の大型のカエルである。常緑広葉樹の森林およびそれに隣接する水場で見られる。近年の森林伐採、道路の敷設が生息環境の悪化を招いており、個体群の縮小が懸念される。

基礎情報

【形態】

成体の頭胴長はオスで 93～138.5 mm、メスで 111～140 mm。頑丈な体格で、頭幅は広く、雌雄ともに頭胴長の 40%程度。胴背面はほぼ一様に緑色がかった暗褐色で、多数のいぼがある。体側は色が淡く、また、淡色の斑紋がある。第 1 指の内側に肉質の袋状の拇指が発達する。この拇指の中には骨質の棘が納まっている。形態はホルストガエルに似るが、背面のイボが発達すること等で容易に識別できる。

【生活史】

繁殖活動は散発的で、集団繁殖は行わない。繁殖期は 4～10 月で、7 月上旬～8 月上旬が最盛期。掘れば水がしみ出るような水辺の土砂に、低い土手に囲まれた内径 20～30 cm、深さ 2 cm ほどのくぼみを掘り、その中に直径 2.0～2.5 mm ほどの卵を 800～1,300 個産む。この他、自然にできた水溜りや人工池などでもしばしば産卵し、山地に囲まれた農地の水桶でも幼生が確認されることがある。幼生は生まれた年の秋までに変態するか、そのまま越冬し翌年の 5～6 月に変態・上陸する。指骨の切片を用いた年齢査定により、野外では性成熟までに約 3 年を要し、平均して 4 歳あまりまで生存し、雌雄とも 7 歳までは生きるとされている。オスは長期間にわたり繁殖場所周辺にとどまり、毎年同じ場所を訪れることが知られる。サワガニ類、マダラカマドウマ、オオゲジ、ミミズ類、ナメクジ類などを捕食し、ヒメアマガエルを食べていた記録もある。卵が同種の幼生やシリケンイモリ、モクズガニに捕食されること、卵および幼生がガラスヒバァに捕食されることが報告されている。

【生息環境】

常緑広葉樹林に覆われた山地や丘陵地の渓流や湿地などに生息する。成体は農地や公園などの人為的な環境も含め、比較的幅広い環境下で見られる。しかし変態後の幼体の生育には、湿潤で小型の無脊椎動物に富んだ常緑広葉樹の自然林が必要と思われる。源流域のよどみなど、流れのほとんどない水域や止水域で繁殖し、林道の集水マスや堰堤の水溜まりなど、人為的な止水もしばしば利用する。とはいえ、本種の出現環境がアマミイシカワガエルと重複することを示した研究もあり、山地森林の源流部が原来の主たる生息環境と考えられる。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，河川源流域，河川上流域 【陸域_平地部】森林，湿地・湿原
国土地域区分：	（1）奥山自然地域，（2）里地里山・田園地域，（4）河川・湿地地域，（7）島嶼地域

【分布域】

奄美諸島の奄美大島、枝手久島、加計呂麻島から知られ、山地から低地まで生息している。

現在の生息状況

【分布域の現況】

本種は山地から低地まで比較的広く分布し、山間部の畑地のため池などでも繁殖している場合がある。龍郷および加計呂麻島の集団が遺伝的に分化していることが報告されている。

【生息地の現況】

主要な生息地である奄美大島の山間部で舗装道路の敷設が進んでおり、個体群への影響が懸念される。森林の伐採や林道の敷設とともに、幼体の生育や繁殖に適した場所が失われていると思われるが、具体的な縮小率は不明。奄美大島ではマングースによる影響を強く受けてきたが、マングースの根絶によってその圧迫要因は取り除かれた。

【個体数の現況】

具体的な数値は不明であるが、環境改変に伴う生息環境の悪化により個体数は減少していると思われる。アマミハナサキガエルに比べると目撃頻度は高くない。マングースの影響により少なくとも一部の地域で個体数の減少が報告されていたが、マングース防除の進展に伴い個体数は回復傾向にある。2024 年に出された奄美大島におけるマングースの根絶宣言は本種の存続にとってプラスの要素であり、今後の生息状況の変化を注視したい。

存続を脅かす要因

奄美大島においてマングースが根絶された現在、道路整備に伴う森林伐採が本種の存続を脅かす主要因といえる。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，河川開発，交通インフラ建設，捕食（外来種による）
	（現在）	森林伐採，河川開発，交通インフラ建設

特記事項

本種はホルストガエルとともに遺存性の高い系統を構成しており、その存在はユーラシア大陸の一部であった時代以降の琉球列島の地史、古地理と強く結び付いていると考えられる。また窪みを掘って産卵する本種の繁殖生態は東アジアに分布するアカガエル科の種の中では独特で、こうした点でも高い学術的価値が認められる。鹿児島県の天然記念物に指定されている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	オットンガエル	*Babina subaspera*	EN
第４次 2019：	オットンガエル	*Babina subaspera*	EN
第４次 2018：	オットンガエル	*Babina subaspera*	EN
第４次 2017：	オットンガエル	*Babina subaspera*	EN
第４次 2015：	オットンガエル	*Babina subaspera*	EN

第４次:	オットンガエル	*Babina subaspera*	EN
第３次:	オットンガエル	*Rana subaspera*	EN
第２次:	オットンガエル	*Babina subaspera*	VU
第１次:	オットンガエル	*Babina subaspera*	V

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 岩井紀子，2010．ガラスヒバァによるオットンガエル（卵，オタマジャクシ）の捕食例―．爬虫両棲類学会報，2010: 111‐112．
- 岩井紀子，2010．オットンガエルの捕食行動―ガラスヒバァからの横取り例―．爬虫両棲類学会報，2010: 103‐105．
- 岩井紀子，2011．オットンガエル卵の捕食者 3 種の観察例．爬虫両棲類学会報，2011: 19‐24．
- Iwai, N., 2013. Home range and movement patterns of the Otton frog: integration of year-round radiotelemetry and mark-recapture methods. Herpetol. Conserv. and Biol., 8(2): 366–375.
- Iwai, N., 2013. Morphology, function and evolution of the pseudothumb in the Otton frog. J. Zool., 289: 127–133.
- Iwai, N. and E. Shoda-Kagaya, 2012. Population structure of an endangered frog (*Babina subaspera*) endemic to the Amami Islands: possible impacts of invasive predators on gene flow. Conserv. Genet., 13: 717–725.
- 岩井紀子・亘悠哉，2006．奄美大島におけるイシカワガエル、オットンガエルの生息状況．爬虫両棲類学会報，2006(2): 109-114．
- 岩井紀子・亘悠哉・戸田光彦・阿部慎太郎・加賀谷隆，2006．奄美大島固有種オットンガエルの保全生態学的研究．プロ・ナトゥーラ・ファンド第 15 期助成成果報告書，pp. 51‐59．自然保護助成金，東京．
- Iwai, I., K. Yasumiba, and M. Akasaka, 2018. Calling-site preferences of three co-occurring endangered frog species on Amami-Oshima Island. Herpetologica, 74(3):199-206.
- 松井正文，2021．オットンガエル．日本爬虫両棲類学会（編），新日本両生爬虫類図鑑，pp. 53-55．サンライズ出版，彦根．
- 松井正文・前田憲男，2018．日本産カエル大鑑．文一総合出版，東京．
- 戸田守・角田羊平・前之園唯史，2017．奄美諸島の 6 つの無人島の両生爬虫類相．Akamata，27: 56-64．

- 戸田光彦・太田英利，2014. オットンガエル．環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編），レッドデータブック 2014 日本の説滅の恐れのある野生生物 3 爬虫類・両生類，pp. 114-115．ぎょうせい，東京.
- 亘悠哉，2011．衰退から回復へ：日本の爬虫類・両生類を救うマングース対策．爬虫両棲類学会報，2011: 137-147.
- 亘悠哉・岩井紀子・大海昌平・加賀谷隆，2007．奄美大島固有種オットンガエルの保全生態学的研究（継続）．プロ・ナトゥーラ・ファンド第 16 期助成成果報告書，pp. 17-24．自然保護助成金，東京.
- Watari, Y., Nishijima, S., Fukasawa, M, Yamada, F., Abe, S., Miyashita, T., 2013. Evaluating the "recovery level" of endangered species without prior information before alien invasion. Ecol. Evol, 3(14): 4711–4721.
- Watari Y., S. Takatsuki, and T. Miyashita, 2008. Effects of exotic mongoose (*Herpestes javanicus*) on the native fauna of Amami-Oshima Island, southern Japan, estimated by distribution patterns along the historical gradient of mongoose invasion. Biol. Invasions, 10:7–17.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Babina subaspera has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Babina subaspera* is listed as VU under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 2,000 km², and estimate indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest, River headwater, Upper river basin 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Wetland
Threat types:	Logging and wood harvesting, River development, Transportation infrastructure construction
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora.





執筆者:	戸田守（琉球大学）
Author:	Mamoru Toda

公表年月：2026 年 3 月